

みなさん、こんにちは。

6月に入り、街行く人の服装も衣替えで白さが目立つようになってきました。雨の多い今年、もうじき始まる梅雨はどんな感じなのでしょう。

1. トライやる・ウィーク 明石市内から15人が活動しました

5月30日(火)～6月2日(金)までの4日間、博物館でも市内8中学校から15名の中学生を受け入れ、トライやる・ウィークを実施しました。歴史や博物館に興味関心の高い中学生が博物館の受付業務や埋蔵文化財の資料整理などの体験を通して、働くということを学びました。

「小学生の時から何度も来ているので、博物館の仕事に興味があります」と言う鈴木君(大蔵中)。中島君(野々池中)は「4月の人形展も見に来ましたが、いろいろなものが展示されるまでどんな仕事があるのか知りたいと思いました」と話してくれました。



館庭の手入れ



火おこし道具作り



発掘体験(本町町屋跡の発掘現場)

3日目は山下町から東仲ノ町、鍛冶屋町の武家屋敷跡を文久年間の地図と現在の地図を手に持ち、比べながら歩いてみました。その後、現在発掘調査中の本町の町屋跡を見学。谷田さん(大久保北中)は「今、江戸時代の土の上に立っているのが驚きです」と言いながら、発掘で使うテガリ(小さなスコップのようなもの)で地面を掘ってみました。瓦や白磁の茶碗を見つけ、慎重に触らせてもらいました。本物に触れることで、どんな人が、どんな暮らしをしていたのだろうと想像が膨らんでいきます。



「ぼくもやってみよう」



「ぴったり合った!」



経石の分類

午後からは太寺の高家寺から見つかった「経石」(寺を建立する際、厄除けなどの意味で石にお経の漢字を書いたもの)を分類。難しい漢字に苦戦しながら書き取りました。4日目は館庭の手入れで汗をかき、勾玉作りも体験しました。

一週間、街のあちこちで活動した中学2年生。それぞれが貴重な体験から感じたことや考えたことを持って、月曜日からの学校生活に戻ります。「大変やったで」「おもしろかったで」「しんどかったー」「うれしかった」「もっとやってみたい」「もう、いやや」などなど、様々な感想があるでしょう。お互いの体験を認め合いながら、ほんの少しか成長した姿で新たな学びをスタートしてくれることを願っています。

企画展 郷土作家シリーズ 北村李軒展 : 6月11日(日)まで
 小さな展覧会 明石の野鳥展 : 6月18日(日)まで